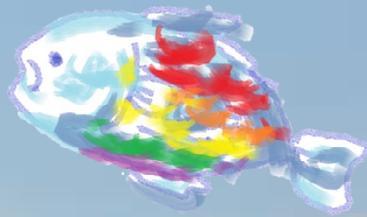


すみたくなる、すみつづけたいくなる、たまの で暮らすこと



すみたまとは…「すみたくなるたまの」の略称です。

玉野市を「すみたくなるたまの」にするには何が必要か女性の視点で話し合うため、平成28年にワーキングチームを立ち上げました。

きっかけは、市の行財政改革の会議で出ていくお金を減らすだけではなく、人口を増やし、入ってくるお金を増やそうと話し合うなか、なぜ玉野市から人が出ていくのかが話題にのぼったことに始まります。

住む場所を決めるときに女性の意見が強く反映されているのではないかと、いう前提のもと、市女性職員有志で話し合い、「仕事（働きやすいまちづくり）」と「情報発信」が大きなポイントになると考えました。

翌年度には、多角的な視点による意見を求めるため、年代もライフスタイルも異なる民間企業やマスコミなどで働く女性と意見交換しながら、カギとなる「女性が住みたくなるたまの」、「住み続けたいくなるたまの」にしていくため、検討を行いました。

特に女性が働きやすいまちづくりを考える中で、「子育てをしながら働く、市外に通勤する、移住して店を開いたなど様々なライフスタイルがあるなか、

女性たちが送る日常を情報発信することで、自分事としてイメージしてもらえ、「ということや」、「女性と結びつきにくい印象の職業に関する情報があれば、固定観念にとられない働き方を提案でき、仕事を選ぶときの選択肢が広がる」という多様な女性の具体的な情報を発信してはどうかといった提言がありました。

そして、情報発信の一つとして、広報紙「広報たまの」に一年を通して玉野市にゆかりのある14人の女性のインタビュー記事を連載しました。

「すみたくなるたまの」になるには、住みたくなる魅力を知ってもらわなければ、住む場所の選択肢の一つにはなりません。

市内にとどまらず、全国にたまの魅力を伝え、より多くの人に「すみたくなるたまの」、「すみつづけたいくなるたまの」が伝わるよう、広報紙の掲載記事を冊子にしました。



◆ある1日のスケジュール

- 5:30 起床
- 6:00 出発
乗船(高松、島々)
- 7:30 仕事
- 17:00 乗船
- 18:00 夕食、入浴
- 22:00 睡眠



こえび隊

瀬戸内国際芸術祭を支えるボランティアサポーター。作品制作の手伝いやPR活動、芸術祭期間中の運営、各島での催しの手伝いなどを行っている。



sumitama:01

瀬戸内国際芸術祭作品「宇野のチヌ」 淀川テクニック

斉藤牧枝^{さん}

「帰れなくなるくらい、玉野を好きになってこい」
送り出されたその言葉を真に受けました。

まだ見ぬ「玉野」へ

以前勤めていた横浜市役所で、職員交流の公募があり、親しみを感じていた中四国地方から、まだ見ぬ「玉野」を選んだのがきっかけです。

土地感がないと仕事で困ることも多く、自転車で行くことに市内を周った。「瀬戸内らしいことを」と誘われてヨットで島巡りをしたりしているうちに玉野での生活が楽しくなり、派遣期間を1年延長してもらいました。

派遣1年目は離島振興の担当でしたが、一つの島を一つの市が盛り上げるのではなく、瀬戸内海の島全体を、いろんな市で盛り上げたら楽しそうと思っていたところ、2年目に瀬戸内国際芸術祭(以下「瀬戸芸」)が開催されることを知りました。「これだ!」と思い、こえび隊に応募して、「玉野での生活もあと1年」と、休日は思い切りボランティアにも取り組みました。ボランティアながら宇野港からこえび隊を島に送り出す事務局のサポート役を担いしました。

派遣期間が終わり、横浜に戻りましたが、また瀬戸芸が開催されることを知り、「前回の私の役割をする人がいるのかな」と気になっていたところ、事務局に声をかけてもらったことが後押し

しとなり、玉野へ移住しました。人からは、一大決心と思われるけど、私にとっては自然な流れでしたよ。

ポジティブパワーで笑顔に

こえび隊の人はアクティブでポジティブな人ばかりなので、いつもパワーをもらえるところが仕事の魅力です。年齢も国籍も様々な人と友達になれますよ。

ボランティアの内容も、レストランの店長代理をするなど日々新鮮で、「まだまだ私にも可能性がある」と、新しい発見があります。

また、朝、心配そうに船に乗り込むこえび隊初参加の人が、夕方には「また来ます!」と目を輝かせて帰っていく姿を見るときはうれしいですね。

世界中の人が芸術祭に訪れていることを知ってもらいたい

1人でも多くの方が宇野港から出発して、島を楽しんでもらえるよう、また、島の人にも楽しんでもらえるよう、私はコツコツと、こえび隊のサポートをします。

いろんな人が関わる宇野港で、ぜひ一緒におもてなしましょう。

移住のきっかけになった仕事

【瀬戸内国際芸術祭】

岡山・香川の瀬戸内海の島々で3年に1度開催される現代美術の祭典。略称で「瀬戸芸」とも呼ばれる。第1回は2010年、第2回は2013年、第3回は2016年、第4回は2019年に開催。

さいとう・まきえ/NPO法人瀬戸内こえびネットワーク

元横浜市職員。職員交流の公募で玉野へ。瀬戸芸をきっかけに玉野へ移住。瀬戸内国際芸術祭を支えるボランティア(こえび隊)をサポートしている。

sumitama:02

宮田アンドリアさん

大きな岩、海、島々が目の前に広がる「王子が岳」の景色は本当に美しく大好きな場所です。



おすすめの場所

【王子が岳】玉野市洪川4丁目

巨石・奇石が切り立つ山。山頂からは、瀬戸大橋、瀬戸内海、四国の山々を見渡せる絶景スポット。



自分だからこそできる仕事

自宅で観光ガイドブックの翻訳をしているほか、外国人旅行者のツアーで通訳をしたり、大学で講師をしたりしています。

通訳をしていて、お客様から「あなたがいなければ、こんなに詳しく知ることではできなかった」など褒めていただいたときはうれしく思います。

楽しみは友人との時間

友人に会いに出かけたり、子どものPTAの関係で知り合った友人と市内のカフェ巡りをしたりします。

玉野は子育てしやすいところ

子どもたちが通った小学校は生徒も落ち着いていて、先生もよく相談に乗ってくださいました。

また、中学卒業まで医療費が無料の制度は、子どもがよく通院していたので、本当に助かりました。

私は近所の人の誘いで、「たまの灘崎子ども劇場」の会員になったので、多くのママ友ができ、先輩ママにいろいろ教わることができました。

それと、公園がたくさんあるので、

子どもが小さいときは市内のいろいろな公園に連れて行きました。

王子が岳は美しい

玉野は景色の良い場所がたくさんあります。

八浜の陸橋から見る田んぼや常山駅から見える田園風景や桜なども気に入っています。

中でも、大きな岩、海、島々が目の前に広がる「王子が岳」の景色はとても美しく、大好きな場所です。

◆ある1日のスケジュール

- 5:30 起床
- 7:00 子どものお弁当づくり
身支度
- 7:30 出勤
- 8:45 大学で講義
- 12:30 昼食・買い物・ジム
- 16:00 帰宅・翻訳の仕事
- 17:00 夕食準備・洗濯
- 18:00 子どもが帰宅・夕食
- 19:00 夕食の片付け
- 20:00 お風呂
- 21:30 家族就寝
- 1:00 就寝

みやた・あんどりあ/通訳ガイド

アメリカ出身で語学留学をきっかけに日本へ。20年前、結婚を機に玉野に住むことを決めた。現在、仕事と子育てを両立している。

島への近さが移住の決め手

移住先に求めたのは、のんびりとした暮らし、親が遊びに来るときにアクセスが良いこと、中学生の子どもが進学しやすいことの3点でした。

探していく中で、岡山市などの都市にも近く、島々にも近い玉野市に住もうと決めました。

近くにある、気になる島

直島は有名なので、気になっていました。意外と玉野市民の皆さんが島に足を運んでいないことに驚きました。

島々の中でも、豊島は子どもたちと一緒に訪れて好きになった島のひとつです。

客船が身近な生活

フェリーのような大きな客船が一日中行き交う風景が良いですね。私が育ったところは太平洋側で、同じ海でも全く様子が違うため、客船が身近な生活はとても珍しいと思います。

休日は家族・自分の時間

月々水は弁当販売、木々金は魚市場で働いているので、休日は、たまった



好きな風景

【フェリーが行き交う風景】宇野港
宇野港の耐震大型客船バースは西日本最大級。四国や瀬戸内海の島々への海上交通としてフェリーも運航している。

家事や子どもの用事、弁当の材料の仕入れ、仕込みをしています。

時間ができたら、食に関わるイベントに参加したり、気になっているご飯屋さんに行ったりしています。

「おいしい」の言葉がやりがい

お客さんに「おいしい」と言っているだけでうれしいですね。

できるだけ玉野の野菜や瀬戸内の魚などを使ったお弁当を作って、多くの人に楽しんで食べてもらいたいです。

玉野はのんびり暮らせる場所

玉野は、住む場所としてちょうど良い規模のまちです。これからも、のんびり暮らしていければいいな。

sumitama:03

五十嵐由美子^{さん}

長年暮らしたまちを離れて何か新しいことをしようと思い、いまはお弁当屋さんをしています。



◆ある1日のスケジュール

- 6:00 起床
- 7:00 出勤
弁当の仕上げ
- 11:30 開店
販売
翌日の仕込み
- 18:00 子どもが帰宅
- 19:00 夕食
- 20:00 お店の準備
- 23:00 就寝

いがらし・ゆみこ／弁当屋「遊穂」経営者

5年前に玉野市へ移住し、平成30年1月から手作り弁当の販売を開始。弁当販売と魚市場をかねもちで働きながら、店舗近くの自宅で子どもと暮らしている。



◆ある1日のスケジュール
【海苔生産時期】

- 5:00 起床・身支度・家事
- 7:00 事務仕事開始
- 9:00 海苔小屋に出勤
生産・商品づくり
- 12:30 昼食
- 13:00 生産・商談
- 17:45 子どもの迎え・帰宅
夕食
- 18:30 海苔小屋に再出勤・生産
- 20:00 帰宅・お風呂・子どもと遊ぶ
- 21:30 子どもの寝かしつけ
お気に入りのドラマ♥
- 23:00 経理・翌日の準備
- 1:00 就寝



実家から見える景色、父を迎えに行った港。
当たり前風景が、玉野から出たくない理由
なのかもしれません。

sumitama:04

富永美保さん

小さいときから「玉野派」

ずっと玉野に住んでいます。小学校の授業で「玉野と都会のどちらがいいか」という質問のときも「玉野」に手を挙げていました。

胸上の海と暮らす

大阪出身の夫が、「自分で育てた海苔を友達に贈りたい」と言ったのがきっかけで、海苔の生産を始めました。

当時は胸上産はもちろん岡山産と表示された海苔さえありませんでした。そこで、おいしい胸上の海苔を多くの人にお伝えしたいと思い、平成21年から「邦美丸」の海苔の販売を始めました。「邦美丸」は夫婦の名前から一字ずつ付けています。

海苔がつながる縁

12月から3月の摘み取り時期は、海苔に合わせた生活になるため休みがありません。

でも、「送り先に、おいしい海苔がありがとうと言われた」とお客様が報告の電話をくれたときや、わざわざ工場に海苔を求めて来てくださるときは嬉しくてやりがいを感じます。

「この海苔ならあの人は喜んでくれるかな」とお客様のことを考えながら仕事をしています。海苔がつないでくれる縁は間違いなく人生の宝物です。

家族のつながり、子育てのつながり

娘(小3)が料亭顔負けの美味しい卵焼きを作ってくれたり、息子(小1)がゴミ出しに行ってくれたりして本当に助かっています。

また、ママ友が子どもたちを預かってくれたり、ご近所さんが声を掛けてくれたりする「つながり」はありがたいです。

息子がよく熱を出すので、医療費が中学卒業まで無料なのも助かりますね。

玉野を背負う気持ちで販売する

近々、新設する工場を工場見学の受け入れの場や、ママに優しい職場にしたいです。キッズスペースがあるので、ママたちも安心して働けるといいな。皆で「楽しい」を共有できたら最高です。

また、娘がもう少し成長したら一緒に海苔の販売をしたいです。販売は話も知識もつきますからね。

生まれ育った場所
【胸上(むねあげ)地区】

古くから胸上地区は漁業で栄えてきた。「胸を張れるほど良い景色」と言われたことが地名の由来になったとか。景勝地にも恵まれている。

とみなが・みほ/邦美丸創業者

代々漁師の家庭に生まれ、離乳食のころから海苔を食べて育つ。胸上産の海苔を夫婦で養殖・加工・販売まで行う。

あと人が優しいです。栽培を始めた当初、近所の人が働きにきてくれて、周囲とのパイプ役になってくれました。地域のことを教えてもらえてありがたかったです。今はその人の娘さんが一緒に働いてくれるんですよ。

玉野は農業がしやすい土地だと思います。気候が暖かいのでハウスの光熱費も寒い地域よりかからないし、地震や台風、雪といった災害も断然少ないですよ。

玉野に住むきっかけは、夫が仕事（農業）で独立を決意したことでした。

玉野は農業がしやすい



道の駅「みやま公園」
【みどりの館 みやま】玉野市田井 2 丁目 4464
採れたて野菜や鮮魚を販売する「直販コーナー」では、地元で採れた農作物の販売や地元の特産品を購入することができる。

農業に転職、生きがい再発見

玉野に来て約2年は、それまでの職であった看護師として勤務していたのですが、夫とパートさんをサポートするため、農業に転職しました。

今では道の駅みやま公園直売所（以下「みやま」）にバラや野菜を出荷することが生きがいです。

長時間、重装備での消毒や毎日の花切りが必要なバラ栽培、そして野菜栽培も365日休みがないため、つらいと思うことも。

でも、「きれい」「葉の色が違う」「やわらかくておいしい」と言ってもらえるとうれしくてやる気になります。

こだわり続ける

野菜の種類を増やして、個人はもちろん、レストランや施設でも、みやまの野菜を使ってもらえるようにしたいです。そうしたら、生産者も、みやまも盛り上がりませんか。

私、みやまへの想いは強いですよ。みやまを「玉野の台所」にしたいと思っています。

パートさんたちと主婦目線で、見た目や品質、値段はもちろん、量にもこだわってつくっていききたいです。

農業の世界では50、60歳はまだまだ若者。
80歳までできる仕事。みんなで農業しましょう。

sumitama:05

金川真樹さん



◆ある1日のスケジュール

- 5:30 起床
- 6:00 朝食・家事
- 8:00 仕事
- 12:00 昼食
- 13:00 仕事
- 17:30 家事
- 19:00 夕食
- 20:00 自分の時間
- 23:00 就寝



看板犬(赤丸)

かながわ・まき/かながわ園芸
25年前に千葉県から玉野市へ移住。移住後も以前の看護師を続けていたが、農業に転職。夫婦でバラと野菜を生産している。

偶然見た広報紙で老後の夢が叶った

結婚を機に夫の地元島根に行きましたが、私の地元玉野には度々帰省していました。

帰省の際、偶然見た「広報たまの」に保育士募集の記事が載っているのを見つけ、受験、合格したのがきっかけです。

夫は学生時代にいた岡山が大好きで、玉野のことも大好き。「老後は玉野で暮らしたいね」と話していました。ちよつと長男が4月から小学校に入學するタイミング。夫も岡山で就職先が決まり、吸い寄せられるように、玉野に戻った感じでした。

玉野は海のおい

結婚前に夫が玉野に来ると「海のおいがする」と言っていたけれど、全然分からなかったんです。でも結婚して玉野を離れたあと、帰省したときに初めて気づくことができました。

玉野は晴れの日が多いですね。島根は雨やくもりの日が多いので、運動会は体育館で行われるものなんですよ。

あと、温泉やかき氷屋さんなど新しいお店ができていて、お気に入りの場所になりました。

子育てに協力してもらえ

Uターンで玉野に戻ってきましたが、実家が近くにあるので、子育てに協力してもらうことができ、とても助かっています。

成長を見守りたい「たまのっ子」たち

最初は玉野の方言に戸惑っていた3人の子どもたちも、今ではすっかり「たまのっ子」。これからも保育士の仕事と子育てを両立しながら頑張っていきたいです。



晴れの日に行きたい場所

【みやま公園】玉野市田井2丁目4490

平成30年「わんぱく広場」に新総合遊具が完成。そのほか、桜や紅葉などの四季折々の自然やミニパターゴルフ、深山イギリス庭園、サイクリングロード、ドッグランなどがあり家族で楽しめる。

sumitama:06

福島由起さん

「将来は玉野で暮らそう」と決めていた夢は確実に叶いそうです。

◆ある1日のスケジュール

- 6:00 起床
- 7:00 朝食・家事
子どもたちの準備
- 7:45 出勤
- 8:15 仕事
- 18:00 帰宅
- 19:00 家事・夕食
子どもたちとの時間
- 22:00 就寝



ふくしま・ゆき／保育士（八浜認定こども園勤務）
玉野市で生まれ育ち、結婚を機に島根県へ。玉野に帰省中、広報たまのに掲載されていた保育士募集の記事を見つけ、受験、合格がきっかけで、5年前、家族で玉野へUターンした。

福原奈々 さん

破れたけど、まだ着たい…
そんなときに相談してもらえる「地域の布のなんでも屋さん」になりたい。



感動する風景

【田園】玉野市用吉など
八浜、荘内、山田、東兎などの地域には潤いを感じる田園風景が広がっている。



【左】奈々さんと娘、【右】奈々さんの母と姪

家族の近くでやりたいことを見つけた

昔は「外の世界が見たい」という想いで、高校は岡山に通い、大学は京都で過ごしました。その後、東京で就職し、5年が過ぎたころ、東日本大震災を経験しました。

震災をきっかけに、せつかくならやりたいことをやろう、家族の近くにいたいと玉野に帰ってきました。

ずっと布に携わりたいとしたいという思いがあったので、戻ってからの1年間は、倉敷にある布と生活を学ぶ研究所に通いながら実家の店を手伝いました。

店では、「受け継いだ着物を洋服にしてまた着たい」など、物を大切にしたいというお客様の想いに触れる機会が多く、販売だけではない幅広い仕事をしていることを知り、おもしろさを覚えました。

そんな中で、自分がやりたいことがここにあると思いました。

手作りは楽しくて豊かな時間

店で働くようになり、「服を作りたくても場所やマシンがない」「ハードルが高い」と感じる人に、気軽にできる提案をしたいと思い、大人向けと子ども向けの手芸教室を始めました。お客様が家で

も楽しんで作れるようにサポートしています。

依頼があれば児童館や放課後児童クラブへも教えに行きます。好きが高じて、家政科に進んだ子もいますよ。

「手作りは時間がかかるけど楽しくて豊か」、そんな価値を伝えたいです。草の根活動ですね。

当たり前ではない玉野の魅力

王子が岳は、県外の友だちが来たときに必ず連れて行くスポット。初詣代わりにも訪れますよ。

東京から帰ってきてすぐは、田んぼや夕日など、ひとつひとつの日常風景に感動していました。

Uターンを経験し、それらの風景が当たり前ではないと思える感覚は、玉野に魅力を感じて来てくれる移住者の人たちと同じかも。

手作りの良さを伝えたい

形を変えつつ4代続いた店を、私と同世代の人たちにも共感してもらえるように、これからも時代に合わせて変えていきたいです。

根本にある「手作りの良さを伝えたい」という思いは変えずに。

◆ある1日のスケジュール	6:30 起床	18:00 終業
	9:00 出勤・仕事	19:30 帰宅・家事・夕食
	12:00 昼食	子どもとの時間
	13:00 仕事	22:00 就寝

ふくはら・なな/手芸店「コットンショップ もめん畑」経営者
4代続く手芸店に勤める。結婚を機に倉敷市へ移り住んだが玉野の店に通っている。ラッキーセブンが名前の由来。

sumitama:08

柴田法枝さん

◆ある1日のスケジュール

- 5:00 起床、家事、準備
- 7:45 出勤
- 8:00 仕事
- 12:00 昼食
- 13:00 仕事
- 17:00 終業
- 帰宅、家事、夕食
- 韓流ドラマ30分♥
- 23:30 就寝



玉野市の公共交通

【シーバス・シータク】

玉野市では、コミュニティバス「シーバス」と乗合タクシー「シータク」を組み合わせ、通院、通学、ショッピングなど様々なシーンで活用できる移動手段がある。

造船所内の男性が多い職場でも、女性ウエルカム!



新たな職種へ踏み出す

18歳から接客業をしていましたが、体調を崩して職を探していたところ、女性従業員を探している会社があると聞いたのがきっかけで今の仕事に就きました。

どんな仕事か心配はありましたが、造船業で働く身内がいて、危険な作業がないことは知っていたので、安全面への心配はなかったです。

後から聞いた話だと、初めは上司も何の仕事任せようか、迷ったそうですよ。所内のみんなも「男性の職場なのに大丈夫?」と心配してくれました。今も職場で会う女性は事務のお姉さんか食堂のおばちゃんだけ。日によっては全く女性に会わないことも。

職場の男性は優しく、声をかけてくれたり、コーヒーをごちそうしてくれたり、かわいがってもらっています。女性ウエルカムの職場ですよ。

仕事が増えても残業はしない

最初の5年間はペンキ塗りや部品の組み立てをしていましたが、1年間の産休、育休後、フォークリフトの免許を取り、部品の管理や仕分け、運搬を行うようになりました。

私、頼まれたら、やってあげたくなるタイプなんです。

その結果、「困ったら柴田さんのところに行け」が合い言葉になっているようで、どんな仕事が増えていきます。

でも、「残業しない! 17時に帰る!」がモットーなので、限られた時間を有効に使うため、仕事中はいつも頭はフル回転です。

「ありがとう」がやりがい

部品が足りなくなる時期を予想して事前に知らせたときなどに、思いがけない「ありがとう」の言葉をもらうとやりがいを感じますね。お互い直前に慌てないように伝えただけですけどね。仕事でも思いやりは大切ですよ。

弁当づくりも思いやりを添えて

3人の子育てをする中で、特に今は長男のサッカーの送り迎えと観戦が休日のサイクルです。

あと弁当づくり。弁当プラスおにぎり2個にサンドイッチを持たせることもありますよ。お腹いっぱいになるように、子どものお小遣いが節約できるように。お小遣いの10円は大きいから。

しばた・のりえ/大同塗装(株)勤務
生まれも育ちも玉野市。現場仕事である造船所内でエンジン部品の管理や運搬を行う。3人の子どもの母。

大好きな祖母の存在

大学は愛媛県で暮らしていましたが、小さいときから祖母が大好きだったので、卒業したら玉野に戻ると決めていました。

自営業で忙しかった両親に代わって、祖母が育ててくれたからでしょうか、101歳になった祖母に対する私のおばあちゃん子ぶりは、母が嫉妬するくらいです。

改めて気づくきれいな景色

レクレセンターの近くにある大仙山がお気に入りの場所です。小さいころは基地を作って遊ぶ場所でした。

何年前か前、久しぶりに娘と登ったら、造船のクレーンと玉地区が一望できる場所だったことに改めて気づき、感動。「見て見て！」って娘を呼んで、はいでしまおうくらいきれいでした。

渋川海岸の絶景

早朝の渋川海岸での散歩は「気持ちいい」と喜ばれるので、お客様におすすめしています。

あと、2月の夕日が瀬戸内海に沈む景色は本当におすすめです。

おもてなしはとびきりの笑顔

「ホテルに来てくださった方には絶対笑顔で帰ってもらおう」と決めているので、とびきりの笑顔でおもてなしをしています。

本当は人見知りで、人と接するより、コツコツする仕事に向いている性格。

でも、「できない」とか「無理」と答えることは恥ずかしいと思っているので、難しそうなことでもやってみるようになっています。

この仕事をしてなかったら、こんなにいろんな人に出会えなかったので、楽しんでやっています。

仕事の原動力は娘

「娘が幸せになるまで責任を持って育てる」という思いが仕事の原動力です。「そのために絶対にやりとげると。」

不規則な仕事なので、私は仕事に専念させてもらい、子育ては母に任せています。ただ、娘の大切な行事のときはそちらが優先。

私と祖母の関係を娘と母が繰り返しているのかもしれない。

「ママとは友達みたいじゃなあ」と言う娘と、これからも、なんでも言うてくれる関係を続けていきたいな。

玉野には、一緒にいたい存在がいます。



sumitama:09

小河ユミさん

◆ある1日のスケジュール

- 6:00 起床
- 9:00 出勤・仕事
- 18:00 帰宅・家事・夕食・娘との時間
- 22:00 就寝



おすすめの場所

【瀬戸内海（渋川海岸）に沈む夕日】玉野市渋川渋川海岸は、瀬戸内海国立公園に属し、快水浴場百選、日本の渚百選、日本の白砂青松100選に選定されている。

おごう・ゆみ/ダイヤモンド瀬戸内マリンホテル勤務
玉野市で生まれ育ち、大学卒業後、Uターン。現在、ホテルの営業担当として、玉野を訪れた人におもてなしをしている。



玉野市のよいところ
【救急車の到着が早い】
通報から現場への到着時間は、平均 6.4 分と全国平均 8.5 分より約 2 分も早い(平成 30 年中)。

◆ある 1 週間のスケジュール

1日目	8:30	24時間勤務
2日目	8:30	非番
3日目	8:30	24時間勤務
4日目	8:30	非番
5日目	8:30	24時間勤務
6日目	8:30	非番
7日目		週休日



sumitama:10

常に全力。 藤田英里^{さん} 江尻彩^{さん}

「消防士」という仕事

藤田 「かっこいい」これが消防士になろうと思ったきっかけです。

消防車の運転と消火時に水圧を調整する機関員という仕事をしています。仲間を安全に現場まで連れていき、仲間が安全に作業できるように調整するのが私の役目です。

入庁当初は女性仮眠室などがなかったので日中勤務のみでしたが、4年目から、憧れていた 24 時間勤務の現場に配属されました。

江尻 高校時代の恩師のすすめで消防士の道を選びました。「消防士に向いている」って。

今は消防学校と消防署で勉強の日々です。

過酷な現場も協力して乗り越える

藤田 悲惨な現場を見ることもあり、一つとして同じことがない現場で最善を尽くさなければいけないため、プレッシャーがあります。でも消防はチーム。隊長指揮のもと、みんなで協力して活動するので怖さは軽減されています。

江尻 怖いよりも出動したい気持ちの方が大きいです。

男性の職場でもがんばれる

藤田 やはり体力勝負になると、どうしても男性にはかなわない。だから最初は本当につらかったです。また、女性ならではの悩みもある。でも、つらいときに、尊敬できて、なんでも話せる先輩がいたことで救われました。どんくさいからへこんでばかりの私に、「カメでもヒヨコでもいいからマイペースでやれよ」と言ってくれて。

江尻さんが入庁してからは、始業前の 15 分間、彼女とのガールズトークが本当に嬉しい時間です。彼女ががんばっているから私もがんばろうって。

次の世代を育てる

藤田 元々は現場での活動に憧れて就いた職業でした。

でも今は、東日本大震災のときに子どもたちの声掛けで救えた命があると聞いたのをきっかけに、そんな子どもたちを育てられる防火防災教育をしていきたいです。

江尻 いつか消防学校の教官になりたいです。「あの先生に教えてもらった」と覚えてもらえるし、きっかけを与える人になれるいいな。

今はまず、積極的に知識を身に付けていきたいです。

ふじた・えり／玉野市消防士（入庁 7 年目）
玉野市出身。消防車の運転や消火時に水圧を調整する機関員を担っている。

えじり・あや／玉野市消防士（入庁 1 年目）
岡山市出身。玉野市の高校の恩師のすすめで玉野市消防士へ。現在は、玉野市に移住。現在は、消防学校や消防署で学んでいる。

玉野が大好き

ずっと玉野で一度も出たことはありません。玉野が大好きで、大学も出産するまで勤めていた音楽教室も玉野から通っていました。

ピアノが大好き

昔からピアノが大好きで、ピアノを弾くことで元気になったり、助けられたりすることが多くありました。

自分の好きなことを誰かに伝え、その人を幸せにすることができなかったのであれば、こんなに幸せな仕事はないと思います、この仕事に決めました。

今も、何時間でも弾いていられるくらいピアノが大好き。即興で弾くことが趣味なので、ボランティア仲間が読む絵本に合わせる曲を考えるのが楽しみです。

音楽を届けるボランティア

今は亡き母が、子どもと関わるボランティアをしていて、その姿に憧れて私もボランティアを始めました。

子どもに音楽を聞かせたいと思うけど、コンサートは子ども連れだと敷居が高い。

だから、踊っても歌っても、泣いてもいい0歳から楽しめるコンサートを友人と始めたのがきっかけです。

仲間と一緒にいうことで、やってみたいことや、できるが増えるのはありがたいこと。ボランティア仲間は一生の宝物です。

また、訪れた先で聴いてくださった方の喜ぶ顔を見ると幸せな気持ちになります。ボランティアはこれからも細く長く続けていきたいな。

2人の母のようにになりたい

いつも笑顔で広い心を持っていた母、常に人とのつながりや周りへの心配りを大事にしている夫の母、2人の母のような人になりたいです。

また、ピアノのレッスンは年齢に関係なく、「できなかつたことができるようになる」という小さな幸せの積み重ね。親でも学校の先生でもない立場で関わる私は、子どもたちが楽しく幸せな時間を過ごせるように、成長の手助けをしていきたいと思っています。

sumitama:11

守屋裕美さん

教室やボランティアを通して子どもたちの心の拠り所になりたい。私に関わってくれた大人たちのように。



もりや・ひろみ/ピアノ講師
玉野市で生まれ育つ。ピアノのレッスンを行う傍ら、幼稚園や福祉施設などで音楽を届けるボランティア活動を行う。



子どもと出かけたい場所
【渋川マリン水族館（玉野海洋博物館）】玉野市渋川 2-6-1 瀬戸内海を代表する海洋生物を約 180 種 2000 点飼育展示。屋外には、海獣類（ゴマフアザラシ・キタオットセイ・ウミガメ）も飼育している。また、貝類標本、船舶模型・魚類剥製なども多数展示している。

◆ある1日のスケジュール

- 6:00 起床、朝食、準備
- 8:00 見送り、家事
- 9:00 ボランティアと打ち合わせ
- 13:00 昼食、家事
- 15:00 仕事
- 18:30 夕食、子どもとの時間
- 21:30 家事、自分の時間
- 0:00 就寝

フードツーリズムマイスター

「食」で、地域と旅行者をつなぐ人に与えられる資格です。

最近では、玉野の野菜をメインに、グルテンフリーに配慮したお弁当の開発などを行っています。きっかけは、玉野に来る外国人旅行者が増えてきたけど、外国人に多いと聞く、菜食主義の人は困っているんじゃないかと思ったこと。味はもちろんカロリーや栄養バランスなど、健康にも気を配っているところがポイントです。

海苔やシイタケ、アミエビなど玉野ならではの食材を使った料理の開発と提供方法の考案が私の得意分野。得意なことを仕事にさせてもらっています。

温玉めしを考案したときも今も、料理を思いついたら、同じ料理がないか、インターネットでまず確認します。誰もやっていないことをやりたいから。

料理が広まる

CCRsea※の料理教室で生徒さんが、「家でも作った」と報告してくれるときはうれしいです。

この前、「家族からうちの焼きそばを、教室で習った焼きそばに変えようと言われた」と聞いたときは最高にうれしかった！

癒やしのウクレレ

趣味のウクレレを弾く時間がお気に入り。寝る前の30分の練習が癒しの時間です。

ツーリズムの勉強で熊野古道に行つたとき、森に寝ころび、ガイドさんがフルートを演奏してくれました。音楽とガイドの融合に感動し、玉野で自分がガイドをするなら「海」、弦楽器が好きなので「ウクレレ」だと思ったのがきっかけです。

玉野のことを想う

料理が好きで玉野の食材のことはかき考えています。どこかで何かを食べると、「おいしい」と思ったら、それが玉野の食材でできないかって。

玉野の食材で美味しいものを作つて、玉野を訪れた人に知ってもらいたいし、県外にも持って行ける玉野のお土産を作りたいです。食材の生産者も喜んでくれるものをね。

◆ある1日のスケジュール

- 6:00 起床、家事、準備
- 8:30 出勤
- 18:30 買い物
- 19:00 帰宅
- 19:30 夕食
- 20:00 家事
- 21:00 テレビ、猫と遊ぶ、入浴など
- 23:00 ウクレレの練習
- 23:30 就寝

みんなからの「おいしい」その一言が自信になる。



ご当地グルメ
【たまの温玉めし】
玉野市特産の穴子を混ぜ込んだ、甘辛く味付けした雑穀入り焼き飯に、温泉玉子をトッピングしたもの。Sea 級グルメ全国大会グランプリの常連。
健康的な家庭料理として玉野市に浸透するよう祈りを込めて考案された。

sumitama:12
岡野美早 さん

おかの・みさ / (一社) 玉野コミュニティ・デザイン勤務
玉野のC級グルメ「たまの温玉めし」の生みの親。フードツーリズムマイスターとして働いている。



※CCRsea…都市部から地方への高齢者移住を促進し、さらに移住した高齢者が地方で積極的に就労等の社会活動に参画することで、地方の活性化にも資することを旨とする「生涯活躍のまち」構想。玉野市では、「たまの版CCRsea」として独自の地域資源を活用し、地域活性化を推進している。

武田万実さん

◆ある1日のスケジュール

- 6:00 起床、身支度、家事
- 8:00 息子のサッカー送迎
出勤
- 8:45 仕事
- 11:45 息子の迎え、昼食
- 13:00 子どもと最出勤
- 17:00 帰宅
- 18:00 夕食、遊ぶ、風呂
- 21:30 子ども寝かしつけ
- 23:00 翌日の準備、経理
- 23:30 就寝



岡山の果物を、もっと県内の人に食べて欲しい。

地元で店を開きたい

ある日、先に仕事から帰っていた夫が雑誌を見ていたんです。今治の和菓子屋さんが作るイチゴかき氷のページ。そして「こんなイチゴシロップを作ってみよう」と言われました。

露地イチゴが出る季節、夫が大量のイチゴを買ってきてシロップを作りを始めました。その後、「シロップができたから売りたい」と突然店を始め、私も勤めながら店を手伝いましたが、夏にお客さんがたくさん来てくれて、会社との両立は無理だと思い、半年後に会社を辞めました。

夫の「地元でやりたい」という想いと、芝生と駐車場が広いところが決め手となり、玉野に出店しました。

子どもたちは1日中、芝生で遊んでいます。デート中のカップルや外国人など、いろんな人に声を掛けて遊んでもらっているみたい。場所のおかげで、引っ込み思案だった長女も積極的になりました。

おいしい果物をもっと身近に

桃やピオーネって、岡山県の特産だけど県内の人食べる機会は少ないし、食べ方や旬を知らない人もいますよね。

おいしい果物をもっと身近に提供したいという想いが核となっています。

秋や冬は玉野産の柿やキウイでフィナンシエなどを作っています。みやま公園の直売所が大好きで、季節のものや焼き菓子用の果物は道の駅みやままで仕入れています。

イメージが形になって、お客さんに提供できたとき、おいしいと言ってもらえたときが何より嬉しいです。

お孫さんと一緒に来てくれたおじいちゃん、お孫さんに「わしゃ、氷はいらん」と言っていたのに、お孫さんに言われて食べてくれて、「これ、氷じゃねえな」とって頬を緩ませてくれたときは本当に嬉しかった。

家族やスタッフと挑戦

2016年の芸術祭で、築港婦人会の皆さんと「宇野ののり弁」を作って販売しました。昨年は特産品を開発する勉強会に参加して、玉野産食材のまぜご飯を作るなど、毎年新たなことに挑戦しています。

これからも家族や家族同然のスタッフがやりたいことをできるよう、サポートしながら仕事を楽しみたいですね。

お店の近くの子どもの遊ぶ場所

【宇野港第一突堤緑地】玉野市築港1丁目
瀬戸内海の島々に囲まれ、南北に長い港。一体は、みなとオアシス宇野として観光拠点にもなっている。

たけだ・まみ/おまち堂(株)店長

宇野港でかき氷店を夫婦で経営している。夫の地元である玉野市に出店。



すみたま

発行・編集

令和元年 8月発行
岡山県玉野市政策財政部秘書広報課
〒706-8510 岡山県玉野市宇野 1-27-1
TEL:0863-32-5533 FAX:0863-32-5507
HP:<https://www.city.tamano.lg.jp>
Email:kouhou@city.tamano.lg.jp

この冊子は、玉野市が無料で配布しているものです。
記事は、平成 30 年度取材当時の内容のため、現在と異なる場合があります。

